

ミツミ事業

8本槍製品の相合により今後の成長分野に向けた新製品を開発し、グループ全体の事業機会を創出

取締役副社長執行役員
ミツミ事業本部長
岩屋 良造



■ 主要製品



精密部品 (コネクタ・スイッチ・コイル)
光デバイス (カメラ用アクチュエータ) 電源 機構部品
車載製品 (高周波部品) 半導体 (アナログ半導体)

■ 主な用途



基本戦略

事業の絶対的な永続性の観点から、新8本槍製品を構成する5分野を将来のコア事業として力強く成長させることが、ミツミ事業として最も重要な課題であると認識しています。そのために、サブコアビジネスが生み出すキャッシュを成長原資として新8本槍製品を強化することが、ミツミ事業の基本戦略となります。その執行は、①自律的な成長、②これらの事業を包含する新製品の開発、③これらの事業を有効に活用できると思われる会社のM&Aを行うことで達成されます。

コア・コンピタンス

センサー、光学、MEMS (微小電気機械システム)、高周波技術、電気回路技術、半導体設計技術に代表される超微細加工が求められる分野における技術開発力が競争力の原点です。さらに、経営統合によりミネベアミツミのDNAである超精密加工や垂直統合等のコア技術が融合したことで、開発から量産まで顧客の細かなニーズに一気に通貫で対応する体制を整備しています。新8本槍製品の半数がミツミ事業に属し、グループ全体の「相合」を創出する原動力となっています。

2020年3月期の概況

■ ミツミ事業 ハイライト

売上構成比	ROIC	光デバイス	アナログ半導体
30%	15%	増収増益	オーガニックとM&Aで大幅強化

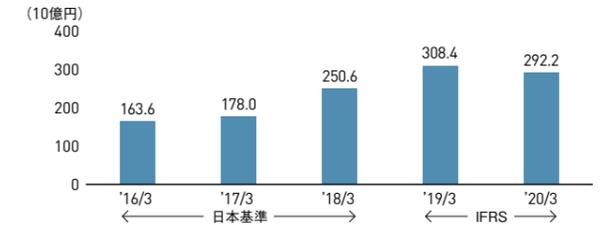
当期の概況

■ 実質的に前期と同水準の収益確保

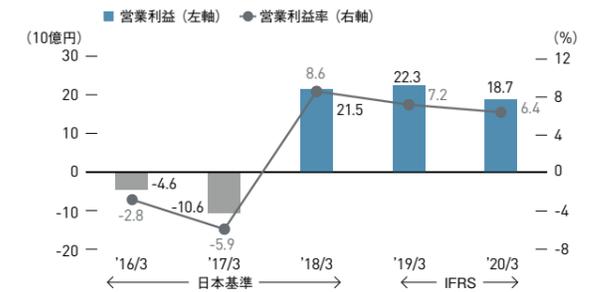
カメラ用アクチュエータは、スマートフォンの多眼化・高性能化のトレンドを受けて大きく増収となりました。またアナログ半導体も、世界経済が減速する中で堅調に推移し、増収となりました。一方、機構部品においては一部OEM製品の製品構成が変化したことにより減収となりました。精密部品、電源、車載製品においては前期比で微減となりました。

この結果、売上高は2,922億円 (前期比2.0%減)、営業利益は187億円 (前期比15.8%減)、営業利益率は6.4%となりました。営業利益については、前期に約40億円のプラスの特殊要因があったことを勘案すると、実質的にはほぼ前期並みとなりました。

■ 売上高



■ 営業利益/営業利益率



『「相合力」でオンリーワンを目指す』戦略

■ アナログ半導体は自律成長とM&Aの両輪で収益の柱として成長

2020年4月より経営統合したエイブリックとは、トップライン、コストの両輪で非常に大きなシナジーが期待できます。エイブリックのアナログ半導体は、自動車向け、医療機器向

け、産業機器向けのいずれも、IoTと密接に関連した高度なコネクティビティ技術や専用デバイスに応用されます。今後は、エイブリックの医療機器用IC、電池レスセンサー、磁気センサーといった独自製品に、当社の技術基盤であるモーターやセンサー、無線通信などを「相合」することで、IoT社会に貢献する革新的な新製品の創出に取り組んでまいります。

社会課題を解決するソリューション創出

■ IoT社会に貢献する革新的な新製品の創出に挑戦

ミツミ事業はその前身のミツミ電機創業時より高周波技術や無線通信技術等のコネクティビティに関する技術開発を強みとしており、その技術はミネベアミツミグループが生み出す「相合」による競争力の源泉の中核をなしています。現在は自動車、コンシューマエレクトロニクス、スマート家電といったさまざまな製品にその技術が応用されていますが、これからも、IoT、ビッグデータ、AI等といった高度情報化やスマート化の加速に貢献してまいります。

なお、右記のとおりミツミ事業では新8本槍の6つ、10のコア技術の7つをカバーしており、これらは今後大きく成長させていく領域になります。

ミネベアミツミ新8本槍 ベアリング モーター アクセサリー アナログ半導体 センサー コネクタ/スイッチ 電源 無線/通信/ソフトウェア	10のコア技術 超精密機械加工技術 大量生産技術 センサー技術 (荷重・圧力など) 光学技術 MEMS技術 高周波技術 電気回路技術 半導体設計技術 機構設計技術 システム設計技術
---	---

■ ミツミ事業がカバーする部分